

1 <sup>とうようみんぞくはくぶつかん</sup> 東洋民俗博物館 1棟 [有形文化財（建造物）]

[所在地] 奈良市あやめ池北1丁目1324番地の5

[所有者] 一般財団法人東洋民俗博物館

[名称及び員数] 東洋民俗博物館 1棟

附 展示棚（大）8台、展示棚（小）6台、展示台（大）7台、展示台（小）2台、  
展示台（小・戸棚付）1台、吊棚4台、長椅子1脚、小棚2台

[時代] 昭和3年

[概要]

東洋民俗博物館は奈良市西部の菖蒲上池を望む高台に位置し、同地に所在していたあやめ池遊園地の一施設として昭和3年11月に開館した。主な展示品は、初代館長の<sup>つくもとよかつ</sup>九十九豊勝が収集した国内外の民族資料である。九十九は早稲田大学在学中に米国の文化人類学者フレデリック・スタールの助手となった人物で、その後、スタールの国内調査に随行しながら民族学の薫陶を受けた。

設計者は未詳だが、大阪電気軌道株式会社（現在の近鉄）が建築主であると伝わることから、同社内で設計が行われた可能性が高い。

本館は、<sup>けたゆき</sup>桁行8.18m、<sup>はりま</sup>梁間5.60m、<sup>きりづまづくり</sup>切妻造、人造スレート葺の展示室をL字に組み合わせた建物で、<sup>いりすみ</sup>入隅を東に向け、中央にポーチとホールを配す。ホールは<sup>とうや</sup>塔屋まで吹抜とする。建物は木造で外壁はモルタル塗<sup>おおかべ</sup>大壁とし、腰壁から基礎にかけては<sup>いしぼり</sup>割り肌の石張とする。

展示室には、展示棚・展示台など8種類、計31台の<sup>じゅうき</sup>什器が現存し、いずれも当初のものであると伝わる。室内を撮影した古写真にも現在と同一の什器が写っており、これらが戦前まで遡ることは確実である。また、展示室にはガラス屋根があったと伝わるが、昭和9年の室戸台風による被害を受け、現状の切妻屋根に改造された。

博物館としては小規模であるものの、アール・デコを基調とした内外の意匠は昭和初期の流行を良く示しており、これを<sup>はたん</sup>破綻無く<sup>まと</sup>纏め上げた設計者の力量には確かなものがある。加えて、展示用の什器が当初のまま使用されていることも特筆される。展示室のガラス屋根など改造により失われた部分もあるが、本県における昭和初期の文化施設の数少ない現存例として貴重である。



東洋民俗博物館 外観（南より）



同 南展示室 内観（北より）